

2022年度 事業報告

2022年4月1日～2023年3月31日

特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議

2022年度事業報告書

事業内容

I. 会務関連

1. 会員総会・理事会 2022年6月16日(木)

2021年度事業報告・2021年度活動計算書
2022年度事業計画・2022年度活動予算書
役員選任

2. 記念講演会 2022年6月16日(木)

ハイブリッド開催 参加者: 95名(うち、会場参加46名)(発表者・事務局含む、以下同様)
「CEOとしての意思決定」
第一三共株式会社 常勤顧問 中山 譲治

3. 理事会 2023年1月20日(金)

意見交換
1) 財務の安定化について
2) 次世代の育成について
3) 運営企画について

4. 新規会員勧誘活動

本年度、正会員2社、個人会員1名の退会があったが、新規入会勧誘活動を積極的に行った結果、目標であった新規正会員10社を達成することができた。バイオコミュニティ関西(BiocK)の事業拡大のため、今後も継続的に勧誘活動を行う。

- ◆退会: 正会員 2社(2口)、個人会員 1名
- ◆入会: 正会員 13社(16口)、増口3社(5口)

5. 活動報告会

近畿バイオの会員を対象に、活動報告会を開催した。今年度は、オンラインで4回の開催となった。新規入会会員の事業紹介および近畿バイオからの報告を行い、終了後にはオンライン交流会も実施した。会員相互の理解を深める良い機会となり、いくつかの商談に発展した。

- ◆2022年 4月20日(水) 参加者: 34名
関連団体からのご連絡 神戸医療産業都市: KLSAPの参加・賛助企業募集
新規入会会員事業紹介 株式会社Innovare
近畿バイオからの報告 バイオコミュニティ関西の現状報告

- ◆2022年 5月12日(木) 参加者: 36名
関連団体からのご連絡 近畿経済産業局: バイオものづくりパンフレットの紹介
NEDO: バイオフアウンドリ拠点整備と人材育成
新規入会会員事業紹介 住友電気工業株式会社
株式会社バックス・バイオイノベーション
株式会社AIVICK、国民バイオ株式会社
株式会社SeedBank

- ◆2022年 9月15日(木) 参加者:33名
 新規入会会員事業紹介 株式会社日本政策投資銀行
 株式会社大阪ソーダ(サンヨーファイン)
 弁護士法人山本特許法律事務所
 関連団体からのご紹介 関西イノベーションイニシアティブ:参画大学シーズ集の紹介
 京都リサーチパーク株式会社:ターンキーラボ健都の紹介
 近畿バイオからの報告 関西バイオビジネスマッチング2022の案内
- ◆2023年 3月15日(水) 参加者:33名
 新規入会会員事業紹介 バーンズ・アンド・ゾーンバーグ法律事務所
 シスメックス株式会社
 株式会社竹中工務店
 アーケル・バイオマリンジャパン株式会社
 株式会社日本バイオデータ
 第一生命保険株式会社
 近畿バイオからの報告 バイオベンチャーデータベースの紹介

II. 業務関連

1. バイオ関連技術産業化支援事業

(1) バイオコミュニティ関西(BiocK)

BiocKは、内閣府認定のグローバルバイオコミュニティとして、関西を拠点としたバイオ分野におけるエコシステムの形成を目指し、1)イノベーションの促進、2)ネットワーク形成促進、3)国内外への情報発信に取り組んでいる。事務局は、近畿バイオと公益財団法人都市活力研究所が担当。

今年度は、以下の取組みを行った。

◆内閣府認定

2022年4月22日 内閣府からグローバルバイオコミュニティに認定取得

2022年10月13日 BioJapan2022にてグローバルバイオコミュニティ認定証を受証

◆第3回委員会

2022年7月6日(水)

委員22名、代理15名、随行者24名、欠席委員4名

分科会オブザーバー12名、来賓並びに連携機関19名、事務局5名

1. 新委員紹介:徳島県、鳥取県、奈良県、和歌山県、福井県、堺市

新分科会紹介:パーソナルデータ分科会、麹菌(国菌)ウエルビーイング分科会、
 バイオフィアウンドリ・クラスター分科会、瞳輝くウエルビーイング分科会

2. 役員会決議報告

2022年度活動計画及び予算

規約の改定(ネットワーク機関を定義)

マスタープラン

3. 関西バイオビジネスマッチング開催予定案

4. 活動紹介:関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所

5. 意見交換

◆第4回委員会

2023年2月1日(水)

委員18名、代理17名、随行者22名、欠席委員6名

来賓・連携機関8名、アドバイザー3名、分科会21名、バイオコミュニティ7団体25名、メディア関係者5名、事務局5名

1. 「バイオ戦略に係る直近の動向」

内閣府内閣審議官 渡邊 昇治 様

2. 「2025年大阪・関西万博の最新動向について」

公益社団法人2025年日本国際博覧会 機運醸成局長 堺井 啓公 様

3. 「大学は社会を変えるか？」

京都大学 総長 湊 長博 様

4. 新分科会紹介

ライフスタイルDX、木材・CLT利活用DX、再生医療、デジタルグリーン

5. 意見交換

◆2023年3月末現在 役員5名、委員36名、アドバイザー14名

1)イノベーションの促進

◆2022年度新規分科会(9件)、合計23件(2023年3月末現在)

パーソナルデータ分科会

麹菌(国菌)ウエルビーイング分科会

ライフスタイルDX分科会

木材・CLT利活用DX分科会

バイオファウンドリ・クラスター分科会

瞳輝くウエルビーイング分科会

再生医療分科会

バイオ産業人材育成分科会

デジタルグリーン分科会

◆第2回分科会会議

2022年8月31日(水)

分科会39名、オブザーバー15名、BiocK8名

1. 活動報告:19分科会から報告

2. 意見交換

◆分科会活動報告

BiocKホームページで分科会の活動報告を開始した(2022年12月)。

◆デジタルバイオヘルス分科会のサポート

国立循環器病研究センターがJST共創の場から資金調達しているデジタルバイオヘルス分科会のサポートとして、スタートアップ創出/成長促進支援のための外部専門機関として近畿バイオが参画することになり、事業に応募のあったスタートアップの審査等に参加した。

2)ネットワーク形成促進

◆連携機関登録

2022年度新規登録 65件

連携機関登録 計88件(2023年3月末現在)

- ◆内閣府との意見交換会(2022年11月18日)
渡邊昇治内閣府審議官、宇井伸一企画官(バイオ担当)に来阪いただき、BiocK役員会
および京阪神自治体との意見交換を行った。
- ◆第1回バイオコミュニティ連携会議
2023年2月2日(木)
北海道プライムバイオコミュニティ 6名
鶴岡バイオコミュニティ 4名
長岡バイオコミュニティ 3名
福岡バイオコミュニティ 7名
ひろしまバイオDXコミュニティ 2名
沖縄バイオコミュニティ 2名
Greater Tokyo Biocommunity (GTB) 4名
バイオコミュニティ関西 (BiocK) 8名
株式会社NTTデータ経営研究所(内閣府受託事務局) 5名
 1. 地域バイオコミュニティからの報告
 2. グローバルバイオコミュニティからの報告
 3. 意見交換 総合討議
- ◆京阪神連携会議(大阪府、京都府、神戸市、BiocK)
2023年1月19日(木) 大阪開催 国際イベント打合せ、情報交換
2023年2月6日(月) 神戸開催 神戸市ポストイベント紹介、国際イベント打合せ
2023年3月13日(月) 京都開催 国際イベント打合せ、情報交換
- ◆バイオコミュニティ関西(BiocK) キックオフセミナー
2022年5月27日(金) 参加者:313名(うち、会場参加51名)
「バイオコミュニティ関西への期待」
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 覺道 崇文
「バイオコミュニティ関西の挑戦」
バイオコミュニティ関西(BiocK) 委員長 澤田 拓子
「英国のバイオコミュニティからの学びと
バイオコミュニティ関西に期待すること、日英連携の可能性」
ダークブルーセラピューティック社 取締役／
アダージョセラピューティック社 欧州代表／
リブバイオ社 社主／大阪大学 招聘教授 竹之下 泰志
「日米連携によるスタートアップ支援とバイオコミュニティ関西に期待すること」
MedVenture Partners 株式会社 取締役 CMO／
Stanford University Program Director (U.S.) of Japan Biodesign、
Stanford Byers Center for Biodesign・
Co-Director of Asia Region, SPARK Global, Stanford SPARK 池野 文昭
- ◆BiocKシンポジウム「再生医療最前線 ～関西から世界へ～」
2022年7月25日(月) 参加者:812名(うち、会場参加46名)
「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療」
京都大学iPS細胞研究所 所長・教授 高橋 淳
「重症心不全に対する心筋再生医療」
大阪大学大学院 医学系研究科 特任教授／大阪警察病院 院長 澤 芳樹
「角膜再生医療の実現化に向けて」
大阪大学大学院 医学系研究科 脳神経感覚器外科学講座
主任教授 西田 幸二

「同種滑膜間葉系幹細胞を用いた軟骨再生 その実用化に向けて」
 大阪保健医療大学 教授 大阪大学国際医工情報センター
 招聘教授 中村 憲正

「再生医療の普及を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの活動について」
 大阪大学大学院医学系研究科・医学部附属病院
 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ 特任准教授 岡田 潔

「細胞製造の未来」
 大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻 教授
 (兼)工学研究科テクノアリーナ細胞製造コトづくり拠点 拠点長 紀ノ岡 正博

「住友ファーマの再生・細胞医薬事業の取組状況」
 住友ファーマ株式会社 代表取締役 専務執行役員 木村 徹

「網膜再生医療と医療側の準備」
 株式会社ビジョンケア 代表取締役社長 高橋 政代

【パネルディスカッション】
 モデレーター:澤 芳樹/坂田 恒昭
 パネリスト:高橋 淳/西田 幸二/中村 憲正/岡田 潔/紀ノ岡 正博/
 木村 徹/高橋 政代

◆日英ヘルスケア・シンポジウム

2023年2月27日(月) 主催:英国大使館、英国総領事館 参加者:233名

「Digital technologies and AI for healthy brain ageing and preventing dementia」
 Director Ageing Research at King's (ARK) King's College London
 Dr Richard Siow

「Can geroscience deliver on improving healthy longevity?」
 Head of Lab of Ageing and Cell Senescence University of Oxford
 Co-director UK Ageing Networks Professor Lynne Cox

「Healthy ageing and Neuroscience endeavours in the UK
 and Medicines Discovery Catapult」
 Head of Business Development Medicines
 Discovery Catapult Dr Alexander Henzing

「脳科学とデータサイエンスを組み合わせることで心の健康を達成する」
 ATR脳情報通信総合研究所 所長/株式会社XNef社 CEO 川人 光男

「日英ライフサイエンスエコシステムの比」
 CEO, PanAngium Therapeutics, Owner, Livbio Venture 竹之下 泰志
 認知症早期診断に向けたアイトラッキング式認知機能評価法の開発
 大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学寄附講座
 准教授 武田 朱公

【パネルディスカッション】

モデレーター:坂田 恒昭
 パネリスト:Richard Siow/Lynne Cox/Alexander Henzing/
 川人 光男/竹之下 泰志/武田 朱公

◆バイオ戦略トークセミナー ルール形成による市場創出

2023年3月9日(木) 参加者:75名 (オンラインのみ)

「NITEのご紹介」
 NITE 大阪事業所長 山本 耕市

「国際的な標準化、ルール形成に関する活動について」
 ISO(国際標準化機構)CASCO(適合性評価委員会)
 特別設置タスクフォース 国際エキスパート
 NITE 企画管理部 イノベーション支援課 課長 吉田 耕太郎

「標準化政策の動向」

経済産業省産業標準調査会 基本政策部会 委員
NITE 理事(バイオテクノロジー分野担当) 木井 保夫

「チームNITEの取組」

NITE 企画管理部 イノベーション支援課 専門官 徳永 清徳

【トークセッション】

モデレーター: 坂田 恒昭

パネリスト: 木井 保夫 / 吉田 耕太郎

◆日本×英国(スコットランド)バイオフィotonics先端研究最新情報

2023年3月27日(月) 主催: バイオフィotonics分科会

参加者: 日本47名、海外12名

「バイオコミュニティ関西(BiocK)の紹介」

バイオコミュニティ関西副委員長兼統括コーディネーター 坂田 恒昭

「フotonicsスコットランド(テクノロジースコットランドの紹介)」

フotonicsスコットランド(テクノロジースコットランド) Dr. A. McLeod

「Leveraging photonics for thermally responsive cancer nanomedicin」

University of Strathclyde Dr. C. Hoskins

「High-speed two-photon light-sheet fluorescence lifetime microscopy

using ultrafast lasers and a time-correlated single photon counting array」

University of Glasgow Dr. J. Taylor

「多点同時ラマンプレートリーダー」

Osaka University Dr. K. Bando

「マイクロ流体デバイスを用いた感染症の迅速検出」

National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)

Dr. K. Bando

3) 国内外への情報発信

◆BioJapan2022 ブース出展(2022年10月)

近畿バイオの共同出展ブースに出展し、BiocKの活動を紹介した。

◆英文ホームページ開設(2022年10月)

海外に向けた情報発信を強化するため、英文ホームページを開設した。

◆国際イベント企画

2025年大阪・関西万博の開催に合わせ、BiocK主催の国際イベントの開催を企画中。当初、グローバルバイオエコノミーサミット(GBS/ドイツ)の誘致を検討したが、誘致の規約がなくルールが不明確なため、第4回委員会で、GBSの誘致活動は行わないこと、およびBiocK独自の国際イベントを企画することを決定した。委員団体、内閣府、関係省庁との意見交換を推進中。

(2) 産学個別マッチング

大学の技術シーズと企業のニーズとのマッチングを目的として、近畿圏の大学の産学連携部門とのネットワークを活用し、技術シーズの発掘を行うとともに、企業への紹介を行った。また、新しい技術を有する中小・ベンチャー企業を発掘し、ニーズを有する企業へのマッチングに繋げ、事業化を支援した。

2. バイオベンチャー支援事業

(1) 関西バイオビジネスマッチング2022

バイオ分野で事業展開している企業等を対象に、業務提携、販路開拓、アライアンス締結等の推進を目的として、商談会をオンラインにて開催した。

- ◆ 関西一体となったイベントとするため、BioCKを主催に加え、共催・協力団体を追加
- ◆ 共催・協力団体を通して広報活動を強化
- ◆ 昨年に引き続きEventHubシステムを使用
- ◆ 10月3日募集開始、1月・2月商談実施
- ◆ 出展者向け説明会開催(12月15日、オンライン)
- ◆ ピッチ開催(1月11日、オンライン)
- ◆ マッチングサポート実施(33社からの依頼に対応)
- ◆ 実績

ブース数:115(企業:95、アカデミア:16、その他:4)

参加者数:224名(企業:180、アカデミア:33、その他:11)

ピッチ :29社登壇

商談数 :381件

(昨年度の実績:106(企業:73、アカデミア:33)、参加者数:171名、商談数:241件)

(2) 2022年度 ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援事業(大阪府)

2019年度から継続して大阪府より本事業を受託している。有望な研究・技術シーズを有する府内ライフサイエンス関連産業中小・ベンチャー企業等のグローバルなビジネス展開を支援するため、海外企業等とのマッチング・アライアンスの促進を図ることを目的とし、本事業を実施した。

(2)ー1 海外企業等とのマッチング・アライアンス促進、

海外ライフサイエンスクラスターとの連携促進

下記国際会議に参加し、府と連携して、海外のライフサイエンス関連企業と面談し、大阪のライフサイエンスにおける強みを発信し、大阪における海外企業とのライフサイエンス分野の商談会への参加を促した。

□ <米国> BIO International Convention 2022

2022年6月13日(月)～16日(木)(アメリカ サンディエゴ)

25件の面談を実施した。面談では、当方の、日欧バイオテック&ファーマ パートナリングカンファレンス2022(パートナリングカンファレンス)への勧誘に対し、概ね好意的な印象を持った企業が多かった。25社のうち18社からは前向きな回答を得た。

□ <欧州> BIO EUROPE 2022

2022年10月24日(月)～26日(水)(ドイツ ライプツィヒ)

2022年11月 2日(水)～ 4日(金)(オンライン)

29件の面談を実施した。パートナリングカンファレンスに対するフィードバックでは、概ねよいイベントと思うとの意見を頂いた。

(2)ー2 海外企業とのライフサイエンス分野の商談機会の提供

府と連携して、(1)の活動で関係を構築した欧州の企業等をはじめ、国内外の関係機関と連携し、ライフサイエンス分野の海外クラスターなどと大阪を中心とする国内企業とのパートナリングカンファレンスを企画・実施した。本年度は、オンライン開催とオンサイト開催の両方で本商談会を実施し、個別のone to one meetingの他、オンライン開催ではクラスタープレゼンテーション、オンサイト開催で会場内のポスター展示やLuncheon & Pitchを実施した。参加者数、商談件数等を以下に記載した。さらに、事後フォローとして、アンケート集計を行った。アンケートの集計結果によると、87%の参加者が、期待にそうマッチングができたとの回答であった。

「日欧バイオテック&ファーマ パートナリングカンファレンス2022」の開催

実施内容

開催日 :オンライン:2022年 9月26日(月)~30日(金)

オンサイト:2022年10月11日(火) 9:00~16:00

開催場所:オンライン:商談専用システム(b2match)

オンサイト:ホテル阪急インターナショナル

開催内容:オンライン:開催期間内で参加者が自由に面談時間を設定

オンサイト:個別商談会(25分枠)

対象分野:医薬・創薬、創薬支援、再生医療、デジタルセラピューティクス、ヘルスケア(看護・介護等除く)等

参加実績:オンライン:107人(日:37人、欧:70人)(日:33企業、欧:69企業)

*昨年度156社・団体(欧州106社・団体、日本50社・団体)

オンサイト:97人(日:55人、欧:42人)(日:37企業、欧:33企業)

商談件数:オンライン:158件 *昨年度291件

オンサイト:102件

参加国数 :15か国 *昨年度20か国

(2)ー3 産学官連携情報交流セミナーの企画・実施

府内ライフ中小企業等のニーズを踏まえたビジネス支援のための情報交流セミナーを企画、実施した。開催内容については、PMKイニシアティブと連携して、府と協議して決定した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、すべてオンライン(zoom)での開催となり、近畿バイオでは、案内チラシの作成、それをういての広報活動、HPでの参加受付、視聴者の管理、zoomウェビナーの講演リハーサル、セミナーで使用する資料の作成、セミナーの実施、アンケートの準備と集計等を行った。参加者数は昨年度より増加した。アンケート集計結果からは、いずれの回も満足度は高い、との回答が得られた。

◆第1回 産学官連携情報交流セミナー

2022年 9月 9日(金) 参加者:140名 (オンラインのみ)

「国産初の核酸医薬品であるデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤ビルテブソの開発」

日本新薬株式会社 研究開発本部 創薬研究所 東部創薬研究所所長 中村善隆

「翻訳反応の制御を目的とした核酸分子の開発」

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院 理学研究科 理学専攻化学 教授

機構教育研究推進等組織 糖鎖生命コア研究拠点 教授(兼任) 阿部 洋

◆第2回 産学官連携情報交流セミナー

2022年12月13日(火) 参加者:69名 (オンラインのみ)

「新型コロナウイルス感染症の罹患後症状」

国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター 国際感染症対策室 医長、

医療教育部門 副部門長(兼任) 森岡 慎一郎

「産学官連携による難病治療薬開発のエコシステム」

大阪大学大学院 医学系研究科 再生誘導医学寄附講座 寄附講座 教授 玉井 克人

(3) BioJapan 2022出展支援

2022年10月12日(水)~14日(金)にパシフィコ横浜で開催されたBioJapan2022にて、一定区画のブースを確保し、近畿を中心に活動するバイオ関連の中小ベンチャー企業から出展を募り、14社の共同出展を実施した。

〈出展企業〉

片山化学工業株式会社、株式会社カネカテクノロジー、神戸天然物化学株式会社、学校法人佐藤学園OBMリサーチセンター、シーエスクリエ株式会社、バイオアカデミア株式会社、ホソカワミクロン株式会社、株式会社マイクロン、株式会社マトリクソーム、株式会社水田製作所、株式会社MORESCO、株式会社理研ジェネシス、ルクサナバイオテック株式会社、バイオコ

(4) バイオベンチャーデータベース

これまでの「関西バイオベンチャー一覧」と、バイオインダストリー協会(JBA)の「バイオベンチャーダイレクトリー」との統合を実施した。

掲載件数全件(2023年3月末現在):日本語サイト 227件、英語サイト 146件

2022年度新規掲載(近畿バイオ担当):33件

(関西バイオベンチャー一覧からの移行22件)

3. 研究会

(1) 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会

機能性食品の開発・商品化を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に貢献することを目的として2006年8月に設立した本研究会は、17年目を迎えて、延べ70回の研究会を開催した。今後も継続して機能性食品が「予防医学・代替医療」として有効に活かされていくよう、科学的根拠に基づいた機能性・有効性・安全性等を議論し、健康食品の信頼性を高めていく交流の場として継続実施した。

◆第1回研究会:2022年 6月23日(木) 参加者 オンサイト13名、オンライン:26名

「食と微生物と健康」

京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 教授 小川 順

「水溶性食物繊維の機能性を考える」

京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授 内藤 裕二

◆第2回研究会:2022年 9月 6日(火) 公開セミナー 参加者:137名(オンラインのみ)

「機能性食品開発のためのゲノム編集技術の活用」

株式会社セツロテック 代表取締役CEO 竹澤 慎一郎

「老化研究による新たな生活習慣病治療法の探索」

大阪大学大学院 医学系研究科 健康発達医学寄附講座 教授 中神 啓徳

◆第3回研究会:2022年12月 1日(木) 参加者:30名(オンラインのみ)

「オートファジー活性調整によるビヨンドエイジングの可能性」

株式会社AutoPhagyGO 代表取締役社長 石堂 美和子

「食のパーソナライズと今後の展望」

株式会社AIVICK 代表取締役 矢津田 智子

◆第4回研究会:2023年 3月16日(木) 参加者:23名(オンラインのみ)

「ポリフェノールの健康効果を腸から紐解く」

星薬科大学 生体分子薬理学研究室 特任講師 今 理紗子

「麴菌デフェリフェリクリシンの機能性食品素材としての可能性」

月桂冠株式会社 総合研究所 副主任研究員 戸所 健彦

また、神戸薬科大学と共催で、第2回「関西くすり与健康食品フォーラム」を開催した。今年度は、森下仁丹株式会社 研究開発部 部長 川上宏智 様にご登壇いただいた。

(2) バイオの次世代を考える会

リニューアルを検討中。1月開催の理事会で事務局案を提示して意見交換を行い、その後、会員企業のニーズ調査のため個別ヒアリングを実施した。現在ヒアリング内容をもとに内容をブラッシュアップしている。

(3) 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム

毛細血管画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を行うことを目的として、2021年8月にコンソーシアムを設立し、活動している。毛細血管画像は、生活習慣病などの特定の疾患や、老化、疲労、ストレスなどの健康状態、美容などと関連しており、新しい健康指標として確立することができれば、健康寿命の延伸に貢献できる可能性がある。

今年度は以下のオープンセミナーおよび会員限定セミナーを企画し、実施した。

◆2022年 7月21日(木) 会員総会・第1回研究会

ハイブリッド開催 参加者 オンサイト:29名、オンライン:15名

「毛細血管を対象とした未病・疾患対策」

大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授

大阪大学 総長補佐 高倉 伸幸

「毛細血管研究の進展、毛細血管指標を用いた臨床試験の事例報告」

あっと株式会社 代表取締役 武野 團 氏/CSO 中野 譲

「健康経営の現状と毛細血管指標の健康経営企業での活用に関して」

あっと株式会社(住友生命相互会社より出向) 臼田 明生

◆2022年10月 4日(火) 第2回研究会 参加者:18名(オンラインのみ)

「大動脈・細動脈・毛細血管と運動トレーニング」

流通経済大学スポーツ健康科学部 教授 大槻 毅

「炎症をターゲットにした非感染性疾患(NCDs)

Cardiometabolic Diseases の予防と治療」

認定NPO法人 アジア太平洋心臓病学会 理事長 松森 昭

共同研究提案 あっと株式会社 代表取締役 武野 團

◆2023年 1月12日(木) 第3回研究会・オープンセミナー 参加者:204名

(オンラインのみ)

「血行促進と予防医学」

早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所

ヘルスフード科学部門 部門長 矢澤 一良

「健康社会の実現に向けた腸内環境の見える化と血管・毛細血管との関連可能性」

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

ワクチン・アジュバント研究センター センター長 國澤 純

講演後、会員限定パネルディスカッション

◆2023年 3月28日(火) 第4回研究会 参加者:15名(オンサイトののみ)

参加会員による、会員がコンソーシアムに期待すること、会員のニーズの開示をテーマとした意見交換

4. セミナー・講演会

(1) 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

ライフサイエンス分野で最先端の研究をリードしている関西の先生方にご講演いただくセミナーを公益財団法人都市活力研究所と共同でハイブリッド開催した。

モデレーター:大阪大学大学院医学研究科 教授 竹田 潔

大阪大学共創機構 特任教授 坂田 恒昭

◆第32回:2022年 6月13日(月) 参加者 オンサイト:14名、オンライン:91名

「工学的な臓器モデルの現状と課題、将来展望」

大阪大学大学院 工学研究科 教授 松崎 典弥
「生理活性合成化合物の新しい世界」
京都大学化学研究所 教授
京都大学物質-細胞統合システム拠点 副拠点長 上杉 志成

- ◆第33回:2022年 9月 7日(水) 参加者 オンサイト:27名、オンライン:154名
「QbDに基づく細胞製剤製造の現状と展望」
公益財団法人神戸医療産業都市推進機構
細胞療法研究開発センター センター長 川真田 伸
「ヒト多能性幹細胞由来オルガノイド作製と眼の再生医療への利用」
大阪大学大学院 医学系研究科 寄附講座 教授 林 竜平
- ◆第34回:2022年12月 2日(金) 参加者 オンサイト:16名、オンライン62名
「感染症ワクチンの最適化に資する基盤技術構築」
大阪大学先導的学際研究機構・微生物病研究所 特任教授 吉岡 靖雄
「表皮の恒常性維持機構とその破綻の病態生理」
神戸大学大学院 医学研究科 教授 久保 亮治
- ◆第35回:2023年 4月 3日(月) 参加者 オンサイト:16名、オンライン51名
「量子化学計算を用いた構造生命科学研究」
大阪大学大学院 薬学研究科 教授 福澤 薫
「黄色ブドウ球菌クオラムセンシングの皮膚および全身感染症における役割」
大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授 松岡 悠美

(2) 会場参加型トークセミナー

宮田満氏のコーディネートによる会場参加型トークセミナーを開催した。本年度はモデルナ・ジャパン株式会社代表取締役社長 鈴木蘭美氏をお招きし、講演とトークセッションをオンラインで行った。会員のみ会場参加可能(定員50名)のハイブリッド開催。

- ◆2022年6月27日(月) 参加者 オンサイト:14名、オンライン:162名
「バイオ最新潮流2022」
株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役
／株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満
「mRNAワクチンの最前線」(オンラインでのご講演)
モデルナ・ジャパン株式会社 代表取締役社長 鈴木 蘭美

5. 海外交流

(1) 新春トークセミナー・新春国際交流会

講師・ピッチ登壇者・会員のみ会場参加可能のハイブリッドで新春トークセミナーを開催した。

- ◆2023年 1月20(金) 参加者 オンサイト:60名、オンライン:56名
「バイオテクノロジーの最新潮流2022/23」
株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役
／株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満
「内閣府AIホスピタルプロジェクト:デジタル化・AI化で思いやりに満ちた医療を！」
国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長
／内閣府SIP「AIホスピタル」プログラムディレクター 理事長 中村 祐輔
【トークセッション】
宮田 満／中村 祐輔

【ピッチ登壇】

11団体

在大阪・神戸米国総領事館／ノースカロライナ州政府日本事務所／
カナダ大使館／英国大使館／
オランダ経済・気候政策省、在大阪オランダ王国総領事館／スイス領事館／
バイエルン州駐日代表部／駐日イスラエル大使館／香港貿易発展局／
オーストラリアビクトリア州政府東京事務所／在京都フランス総領事館

6. その他

(1) 西宮市植物生産研究センター企画業務(西宮市より受託)

西宮市植物生産研究センターの企画業務を支援するとともに、同センターで開発された新しい植物の商標登録出願に伴う会計事務等を行った。

(2) メルマガ配信

他団体のバイオ関連の各種イベント情報を、関係各位にメールマガジンとして配信した。
定期配信(2回/月)
臨時配信21回